

§3 団の組織

【目標】

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団の位置付けと団組織について理解する。
2. 団の運営の概要について理解する。
3. 団と育成会の関係について理解する。

【指導上のねらい】

1. 我が国のスカウト運動における団の位置付けを理解させる。
2. 団運営の必要性について理解させる。
3. 育成会が、団の経営母体であることを理解させる。

【展開】

1. セッションの概要と展望

- (1) 団の位置付け、目的について確認する。
- (2) 団委員会、団会議の構成について確認する。
- (3) 育成会の組織・役割・任務について確認する。
- (4) 団運営は、スカウトの活動を支援するために行われることを確認する。

2. 展開

(1) 団の組織、団の運営

条文を1つ1つ確認する。

- ①教育規程 第3章 3-1、2 (総則)
- ②教育規程 第3章 3-3～6 (育成会)
- ③教育規程 第3章 3-7～14 (団委員会)
- ④教育規程 第3章 3-15 (団会議)
- ⑤教育規程 第3章 3-16～26 (ビーバースカウト隊)
- ⑥教育規程 第3章 3-27～45 (カブスカウト隊)
- ⑦教育規程 第3章 3-46～62 (ボーイスカウト隊)
- ⑧教育規程 第3章 3-63～74 (ベンチャースカウト隊)
- ⑨教育規程 第3章 3-75～82 (ローバースカウト隊)
- ⑩教育規程 第3章 3-83、84 (在外日本スカウト団・隊)
- ⑪チャート (団組織)

(2) 留意点

- ①団組織は、スカウトにスカウト教育を実施する最大の単位 (基本組織) であることを明確する。これは、以下のことによります。
 - ・単一組織内で、各年齢層にわたるスカウト活動が長期間実施できること。
 - ・異なる年齢層の仲間と接する機会を与え、進歩・上進の意欲を高めることができる。
 - ・長期にわたる一貫した計画が立てやすい。
 - ・幅広く成人資源の協力が得られやすい。
 - ・地域社会の広い範囲から支援を受けやすい。
- 団運営は、スカウト活動を支援するために行われており「団委員」は、隊活動や隊指導者を支援するために団を運営する指導者であり、「隊指導者」は、スカウトに対して直接教育訓練を行う成人指導者である。
- 団は、スカウト教育を実施する単位である隊と、団の運営に責任を持つ団委員会が構成されており、団委員会が直接教育訓練にあたるもの

担当:

第1日 12:45～13:45 (60分)

●準備品 (資材・資料)

- ・ハンドアウト「スカウト達の身近で支援する成人達」(P42参照)
- ・日本連盟規程集
- ・日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」

ではない。

➡団内の各隊と

ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊、ローバー隊で団家族を構成します。隊の繁栄は、団家族の繁栄とともにあることを忘れてはなりません。

特に、カブ隊とボーイ隊、ボーイ隊とベンチャー隊とはいろいろな意味で密接な関係があります。上進等の関係、カブ隊のプログラムに重要な役割を持つデンコーチの派遣とその選考などについても、ボーイスカウトの少年たちを一番よく知っているボーイ隊長をはじめ、ベンチャー隊長やローバー隊長とも話し合うことが大切です。

デンコーチはやがて、ボーイスカウト活動の中心になる隊員でもあり、また一方、カブスカウトから上進したてのボーイスカウトについては、ボーイ隊長よりもカブ隊長の方がよく知っているかもしれません。団の発展は各隊の繁栄です。団会議などで団内の全指導者の感想を聞くようにしましょう。

団会議は、団委員長が議長となり、団の訓育及び教育に関する事項を協議し、推進するため、団内各隊の隊長・副長がメンバーとなり開催されます。

➡団委員会と

日本連盟教育規程に定められている団委員会は、右に掲げた役目を持っています。

各隊の意向を反映させることができるように、各隊の保護者の中から、団委員が選ばれているはずですが、その方々を通じて、よく隊の実状を伝えていただき、隊のプログラム、企画等に団全体としての協力を仰ぐとともに、団および各隊の状況をよく理解することも大切です。団は家族であり、各隊が共に繁栄することこそ望ましいことです。

②育成会が、団を設立し、その経営母体であることを示し、団の存在の基盤であることを確認する。

→（教育規程 3-4（育成会の任務）：§ 10「育成会と団委員会」でも再確認します。）

育成会の目的は、団の発展と維持をはかることにあり、その資金を確保することが大切な任務であり、その構成者は、保護者をはじめ、教育、宗教、社会奉仕、体育、商工関係その他地域の関係者であるが、それぞれの団においては、さまざまな態様がある。

➡育成会と

あなたの団の育成会は、ボーイ隊、カブ隊等を作るために、特別に組織された団体かもしれません。あるいは、町会・自治会、教会、寺院、神社、PTA、会社など、既存の団体が育成会になっているのかもしれません。それがどのような形であるにしろ、あなたの団はその団体によって支持されている団であることに変わりはありません。そこで、育成会との一体感を盛り上げることは、育成会からより多くの協力を得られることとなります。

育成会に隊をよく理解してもらう方法は、例えば、次のようなものがあります。

- ㊦ 育成会の機関紙、掲示板等を利用する。
- ㊧ 育成会の総会等で報告する。
- ㊨ 育成会の役員を月例隊集会等に招待する。
- ㊩ 育成会の行事などに協力する。
- ㊪ あなたを含めて、保護者たちが育成会のよい一員になる。

●教育規程「第3章 団」

○ 3-9 団委員会の任務

団委員会の任務は次の通りとする。

- (1) 団の存続を維持し、発展させること。
 - (2) 団の財政について責任を持つこと。
 - (3) 団の資産を管理すること。
 - (4) 集会場、備品、キャンプ等の実施についての便宜を図ること。
 - (5) 隊指導者の選任と養成について責任を持ち、訓練への参加を支援すること。
 - (6) 団内スカウトの進歩の促進を図ること。
 - (7) 団内のスカウトの入退団を管理し、団の加盟登録について責任を持つこと。
 - (8) 団内スカウトの健康と安全の向上に努めること。
 - (9) 本運動の趣旨の普及に努めること。
- ②団委員会は、スカウトの実際訓練及び教育には直接たずさわらない。

などです。

➡ コミッショナーと

地区及び県連盟にそれぞれのコミッショナーがいますが、いずれもスカウト活動の全般にわたって深い知識と経験をもった方々で、しかもあなたと同じボランティアです。

各隊との連携を保ちながら、プログラムの全般について各隊の実状をよく知って援助する任務を持っている人なので、インサービスマサポートで、隊長はどんなことでも、たとえば保護者たちとの問題、育成会との問題などについても、相談して支援してもらっています。

コミッショナーは、実状を打ち明けてよく話せば、よろこんで手助けをしてくれます。指導に対する最高のお返しは、あなたの団の繁栄です。隊長が自分の隊で実施して効果のあったこと、うまくいった実例、うまくいかなかった報告もコミッショナーの活動に協力することになります。コミッショナーの企画、要請に対してもできるだけ協力しましょう。

また、団担当コミッショナーは、担当する団及び隊が、効果的にプログラムが実施されるように団の訪問や巡回を通して団委員会及び隊指導者に協力し、助言及び指導並びに援助を行う方々です。困ったことや解らないことがあれば一人で悩まずに、団担当コミッショナーに相談することも解決への糸口になる筈です。

地区には、コミッショナーが主宰する「ラウンドテーブル」があります。各隊の隊長や副長が隊の運営や技能の研修、プログラムの研究などについて、自分の能力を向上させる自己研鑽をする場ですので、積極的に参加してください。また、指導者自身の自己研鑽のためにも、地区等で開催される定形外訓練には、積極的に参加することが必要です。

➡ 地区組織と

団指導者、隊指導者は団の一員であると同時に、地区組織の一員ということになります。

各都道府県内の各団は、地理的条件や団の数などの条件によって県連盟理事会が地域ごとに設けた地区の組織の構成員になります。地区組織は、日本連盟教育規程(5-2)に示されておりますが、地区的に、各団、各隊の発展を計るために設けられた組織で、隊長であるあなたも地区協議会の会員の一人です。地区の一員として、協議会の例会や総会に出席して、地区の発展のために協力することもあなたの責務の1つであり、そうすることが、また、あなたの隊によい影響となって帰ってくるのです。自分の隊のことばかり考えて地区全体の発展を考えないと、結局スカウト運動全体が伸展することができません。

スカウトたちもまた、隊に属しているばかりでなく、世界のスカウト運動に属しているわけですから、隊と最も深いつながりを持つ地区の人々と一緒に活動する機会を持つことは、大きな組織の中の一員であるということを知らせるよい機会にもなります。

➡ 県連盟および日本連盟と

全国組織に関するきまりや、県連盟組織に関するきまりは、日本連盟教育規程等に示されています。あなたの隊は、これら県連盟、日本連盟を通じて、世界のスカウト組織につながっているのです。これらの組織を知ることによって、ボーイスカウト運動が世界的なものであり、あなたの隊もあなたのカブ隊の隊員も世界中のスカウトと兄弟であることを理解させてください。

これらの人や組織から支援を得るためには、日頃からよりよき人

○コミッショナーとトレーナー

◆コミッショナーとは

ボーイスカウトのコミッショナーと、日本連盟、県連盟、地区において、特に教育面を中心に担当して指導にあたる役員のことです。

スカウト運動の初期に、B-Pが自らの代理者として活動方法や基準などの監督や相談に応じるもとを目的に「巡回監督(Traveling Inspector)」を任命したのがコミッショナーの始まりで、スカウト運動の広がりを受け、1910年に「組織コミッショナー(Organizing Commissioner)」が正式に誕生した。

日本におけるコミッショナーは、スカウト運動が、世界スカウト機構、日本連盟、都道府県連盟の方針と規定に従って展開されるように指導・助言を行う、教育や指導面での推進者・責任者をいいます。

◆トレーナーとは

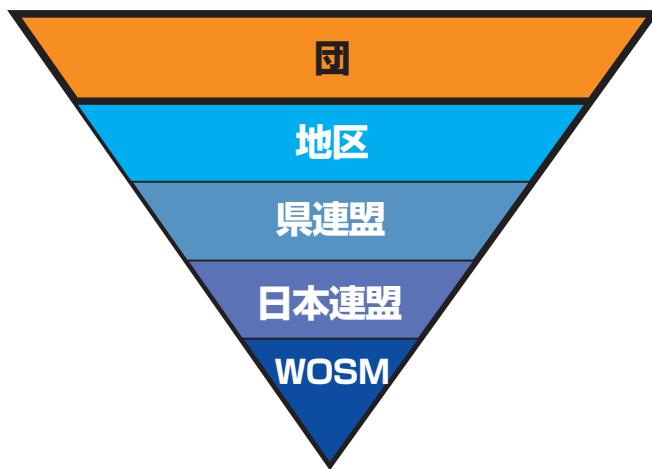
トレーナーとは、日本連盟の訓練方針と訓練体系に基づく指導者訓練機関(定型訓練)やその他の訓練(定型外訓練及び個別支援等)をとおして、各種指導者の役務達成に必要な知識、技能等の習得と向上を図るための訓練を提供できる能力を有する者で日本連盟が委嘱した者をいいます。

間関係を構築し、よきコミュニケーションを持つことが大切です。そして、支援を求めるだけでなく、あなたから支援を行うことも大切なことです。

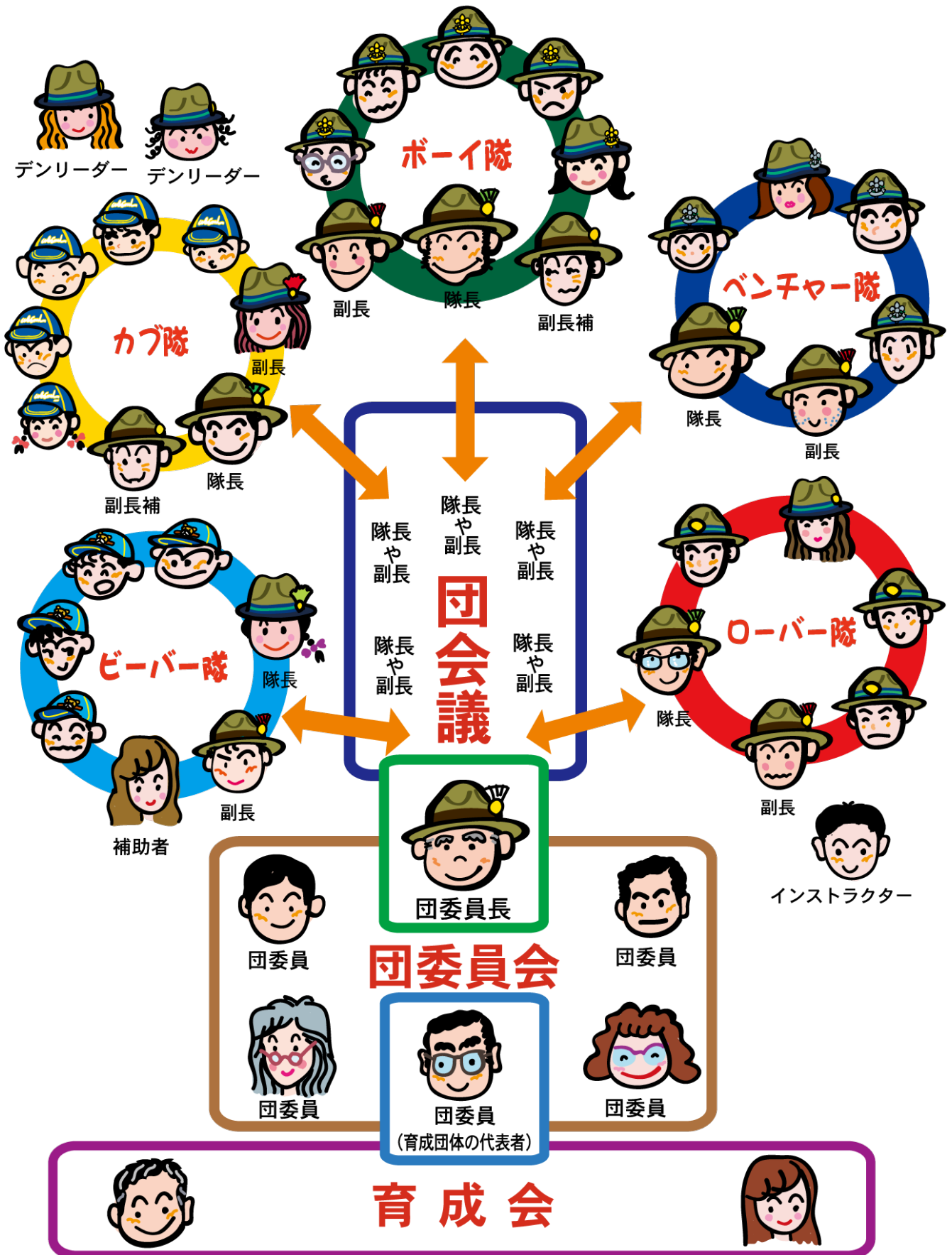
よき人間関係は、指導者自身の人格や日常生活での言動に大きく左右されます。そのためにも、指導者自身が「ちかい」と「おきて」の実践に努め、スカウトの範、つまり社会人の範、よき社会人となることが大切なのです。

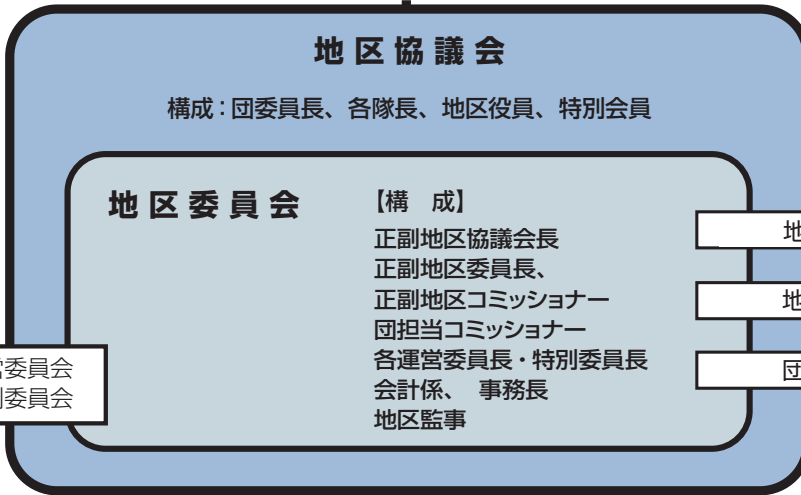
3. まとめ

- (1) 地域社会からスカウト運動への信頼を確保するために、団の存続は、最も重要な事項である。
- (2) 団の永続的な発展のためにも、隊においては正しいスカウト活動が実施され、また団においては正しい運営がなされることが必要である。



団の組織 / スカウト達の身近で支援する成人





- 地区コミッショナー
- 地区副コミッショナー
- 団担当コミッショナー

